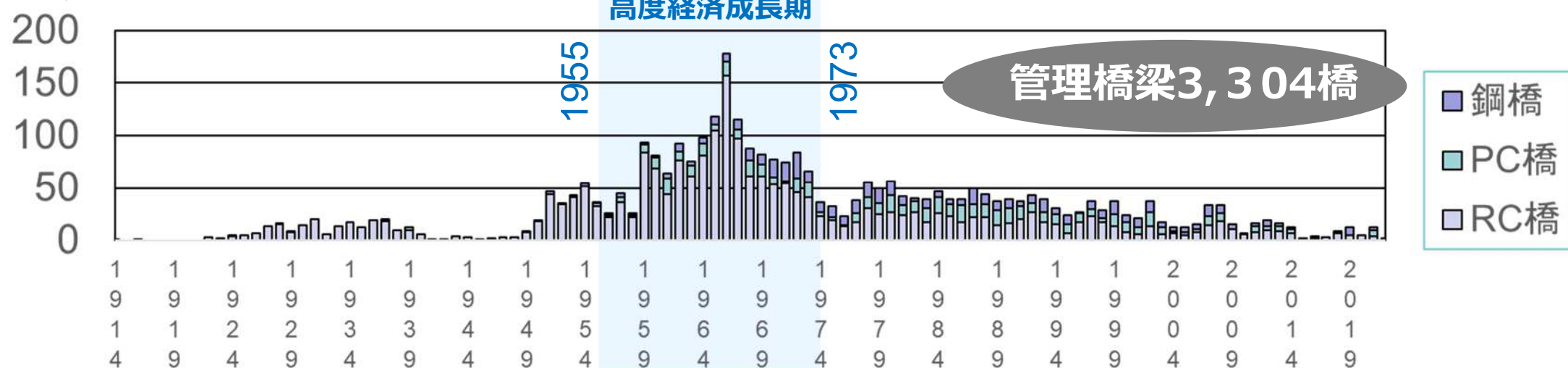


2.本県の維持管理の状況

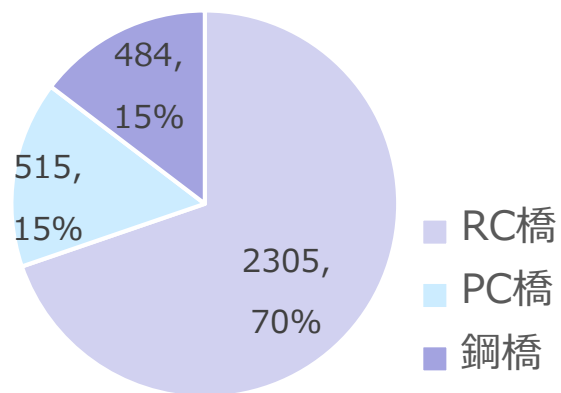
橋梁 高齢化の加速

- 2024年4月1日時点
橋梁数

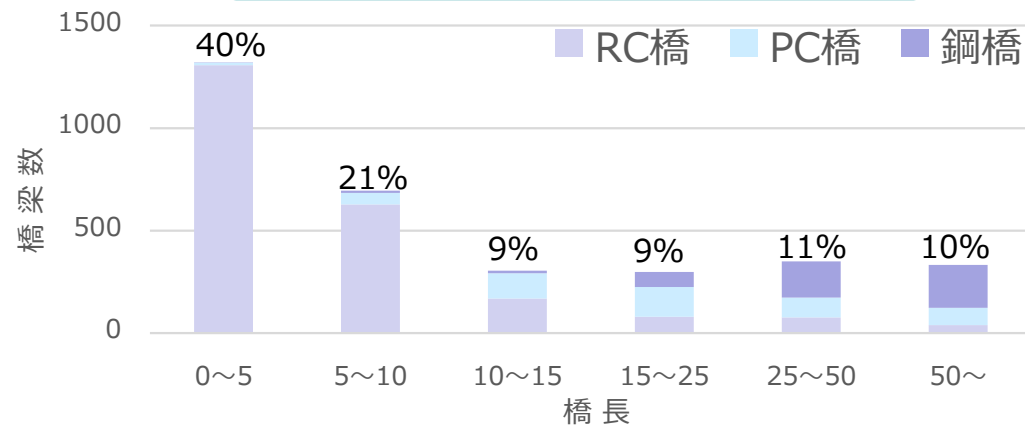
架設橋梁計 1,518橋
鋼橋 153橋、PC橋 163橋、RC橋 1,202橋



橋種別橋梁数



橋長別橋梁数



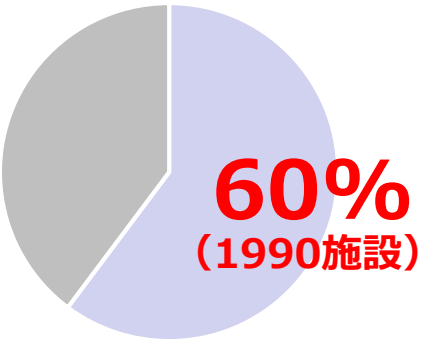
2.本県の維持管理の状況－（1）施設の状況

橋梁 施設の内訳

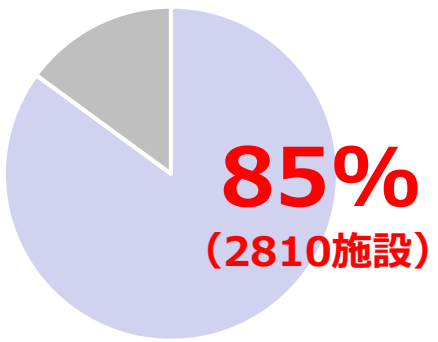
● 橋梁は、全国平均（2040年で約75％）に比べると高齢化が若干早い。
※大型構造物は竣工年次が不明なものが多く全国平均は不明である。

＜橋梁 建設後50年以上の橋梁数＞

2024年

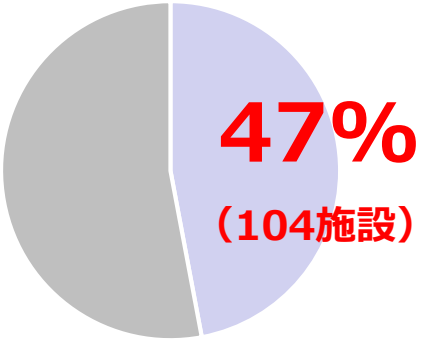


2044年

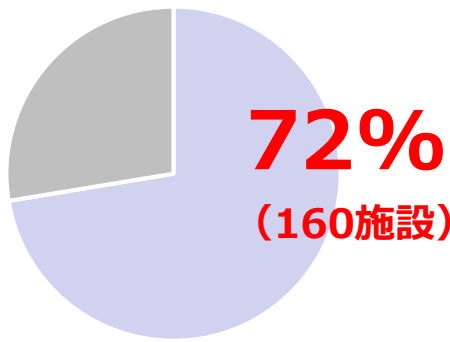


＜大型構造物 建設後50年以上の施設数＞

2024年



2044年

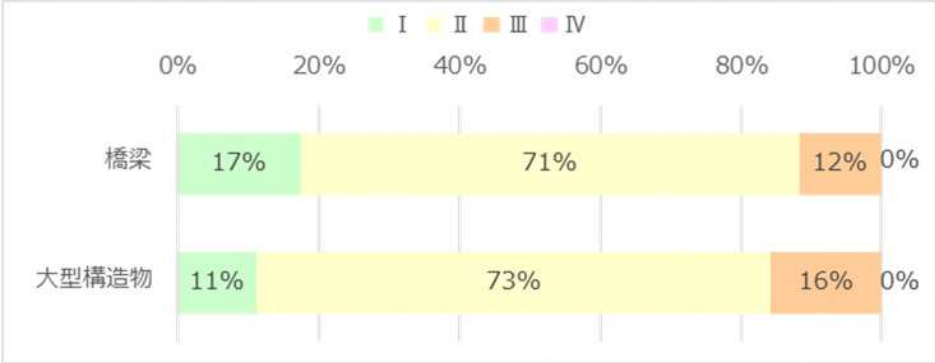


2.本県の維持管理の状況－（2）点検・修繕の状況

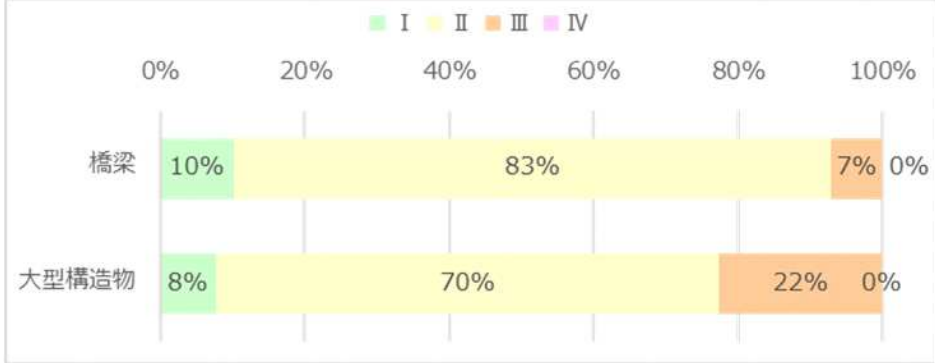
法定点検の結果（1，2巡目の点検結果）

- 県の橋梁は、全国と比べ、Ⅲの割合が低いかつ減少傾向にあり、維持管理対策が進んでいる状況である。
- 一方、大型構造物はⅢ判定の割合が高いかつ増加傾向にあり、対策開始からの年数も浅いことから、取組みを着実に続けていくことが必要である。

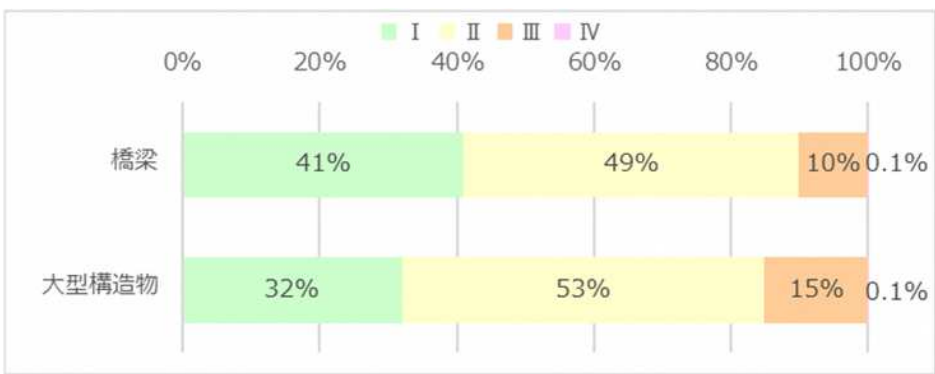
1巡目 点検結果（静岡県）



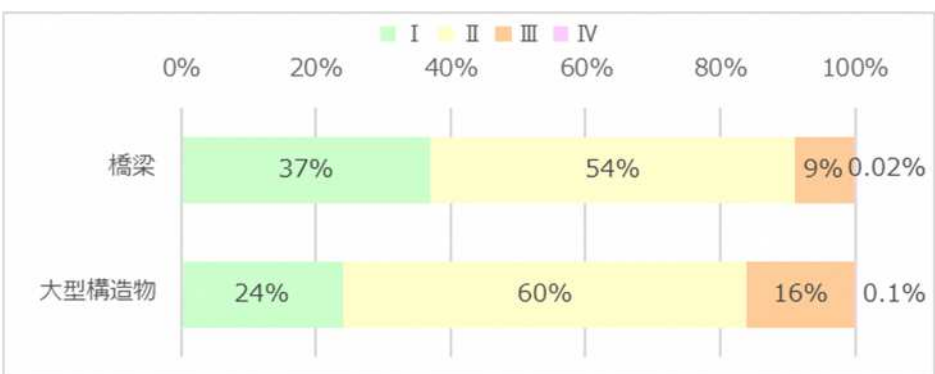
2巡目 点検結果（静岡県）



1巡目 点検結果（都道府県・政令市等）



2巡目 点検結果（都道府県・政令市等）

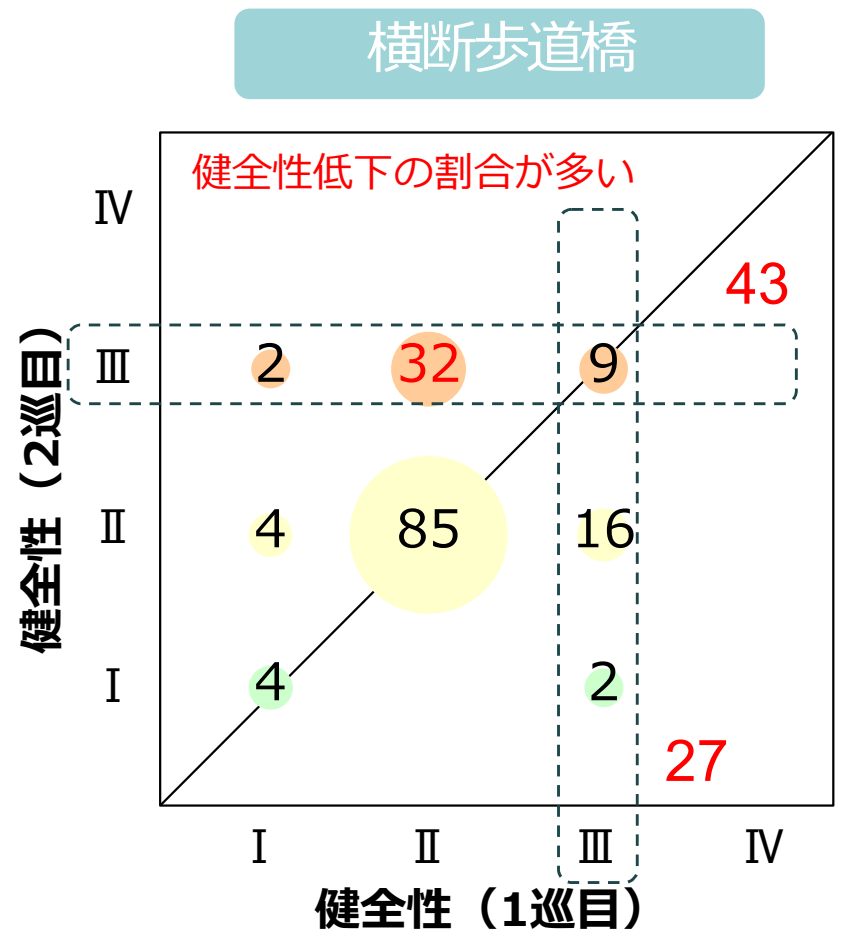
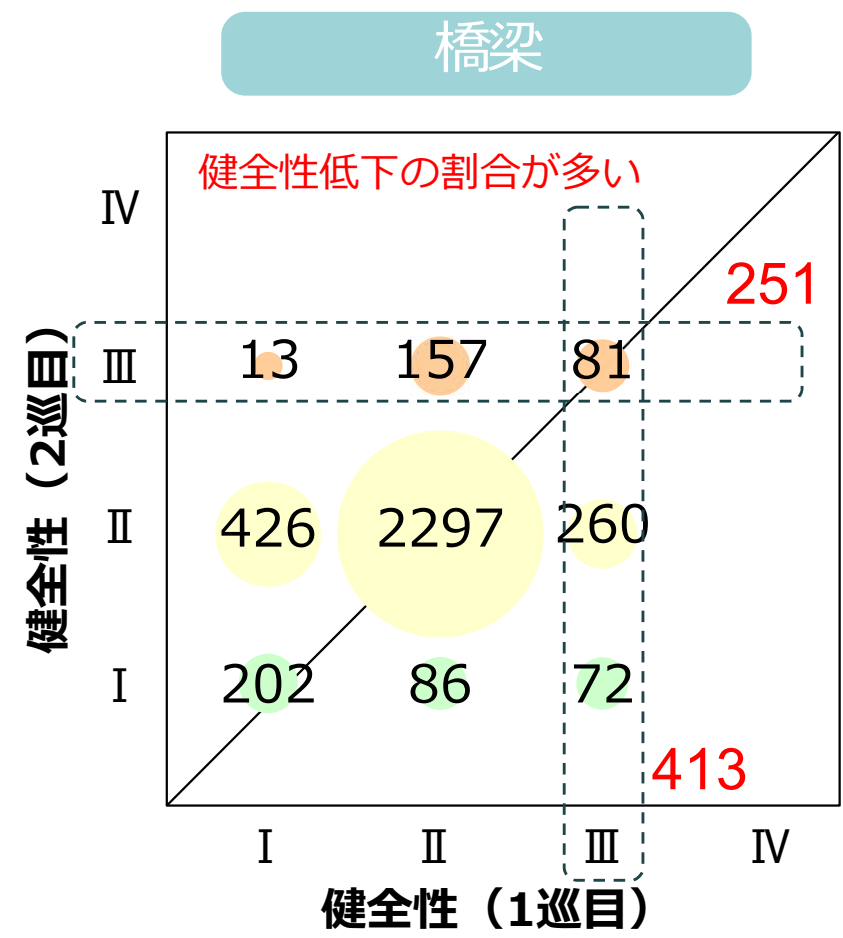


出典：
道路メンテナンス年報（2023年度版）、国土交通省道路局、2024年8月

2.本県の維持管理の状況－（2）点検・修繕の状況

点検1，2巡目の判定区分の遷移について

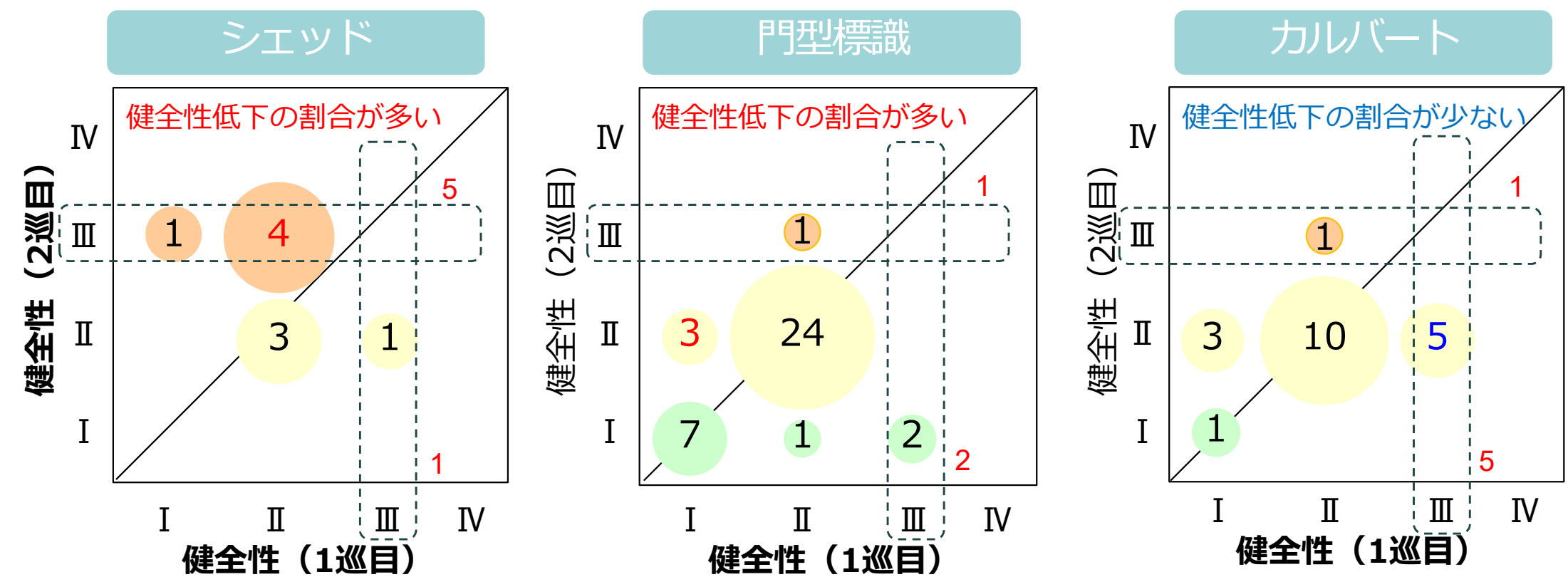
- 橋梁は、Ⅲが減少しており、予防保全型管理への移行が着実に進んでいるが、Ⅱが増加しているため、全体的に健全性低下の割合が多い。
- 横断歩道橋は、Ⅲが増加し、予防保全型管理への移行が進んでおらず、健全性低下の割合も大きい。
- 橋梁、横断歩道橋ともにⅢが確認されているためⅢ判定の早期措置の検討が必要である。



2.本県の維持管理の状況－（2）点検・修繕の状況

点検1, 2巡目の判定区分の遷移について

- シェッド、門型標識は、健全性が低下傾向、カルバートは改善傾向である。
- 3施設とも橋梁や大型構造物と同様にⅢからⅡへの遷移が見られることから、Ⅰとならない原因（再劣化or他箇所の劣化進行）を分析し、健全性回復の方策を検討する。
- シェッドに関してはⅢが増加しているため、Ⅲ判定への早期措置の検討が必要である。



2.本県の維持管理の状況－（2）点検・修繕の状況

健全性Ⅲの遷移（1、2巡目）の考察

- 以下に着目し、現行計画の中長期管理計画（P）、事業実施計画（D）の妥当性や事業実施計画の効果（C）を検証する。

着目点1

1巡目Ⅰから2巡目Ⅲへの遷移

前回点検から5年間の内に劣化が急速に進行した原因を分析し、維持管理における留意点や対策を検討する。

着目点2

1巡目Ⅱから2巡目Ⅲへの遷移

予防保全対策を進める中で、新たにⅢと判定される施設の原因を分析し、対策の実施時期や内容について検討する。

着目点3

1巡目Ⅲから（修繕後）2巡目ⅡまたはⅢへの遷移

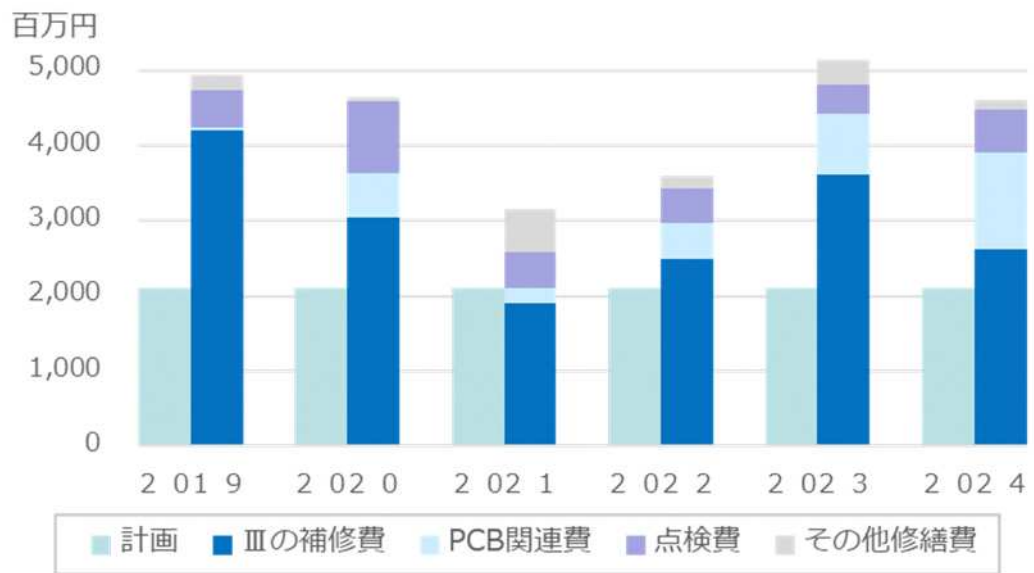
Ⅲの措置後の点検でⅡまたはⅢと判定された部材について、原因分析（部材の劣化のほか、点検時や施工時の人的要因も含め）を行い、再劣化の抑制対策を検討する。

2.本県の維持管理の状況－（2）点検・修繕の状況

維持管理費（2巡目期間）と計画値との比較

- 橋梁・大型構造物ともに、計画した予算に対して実績が多く、特に近年は乖離が大きい。
- 乖離の原因としては、以下が挙げられる。
 - ① 予防保全段階への対応に加え、早期措置段階の対応に追われている。
 - ・ 現行計画で定めた劣化曲線と実際の劣化進行の速度に差が生じている。（検証）
 - ・ 現行計画策定時に設定した施設状態が実態と乖離している。
 - ② 現行計画で定めている各施設の対策シナリオ（対策工種、数量、単価）の設定が実績と乖離している。
 - ・ 近年の労務単価等の高騰により計画と実態に乖離が生じている。
 - ・ 計画策定時の経費率（50%）が実態と乖離している。
 - ③ 修繕要因の増加（2027年3月までのPCB含有塗膜の処理）
- 今後は、高齢化施設が更に増加し、将来の予算確保の状況により修繕に速やかに着手出来ない施設が現れてしまう。

橋梁



大型構造物



2.本県の維持管理の状況－（２）点検・修繕の状況

予算に関する事後評価

- 中長期管理計画は全ての施設で計画開始年から予防保全型管理を行っていることが前提となっており、Ⅲへの措置に追われている状況であるため、当初計画した予算から大きく乖離が生じている状況にある。
- 計画改定にあたっては、予防保全型管理予算とⅢへの対応予算は分けて検討する必要がある。

これまでの計画策定と実施に関する考察

計画段階

点検結果を開始年とし、劣化予測式で管理水準になる時期を決定

管理水準に達した施設に対して、対策シナリオにより、仮定数量とインフレを考慮しない単価で工事費を算出する。（数十年先を予測）

予防保全型のシナリオにより長期（50年）費用を推定する（オレンジ色）。（多くの施設を部材毎の固定したシナリオで算出）

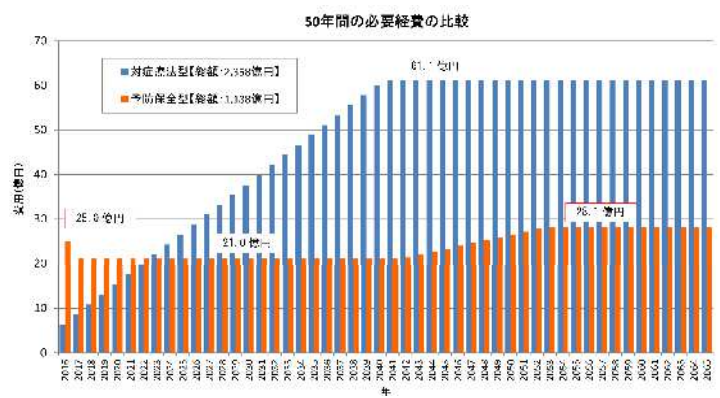
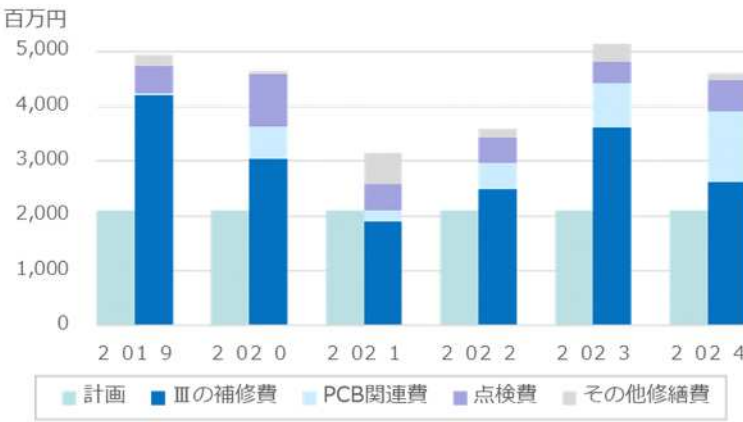
事後保全のシナリオによる費用（青色）と予防保全による費用（オレンジ色）を比較してLCCの最小化を確認する。

事業実施段階

健全性Ⅲが残っているため、Ⅲを修繕する。これは、事後保全型の対応となり、予防保全型で推定した予算より多く必要となる。

事後保全型の管理では、右図で設定した、青色の予算が必要となる。

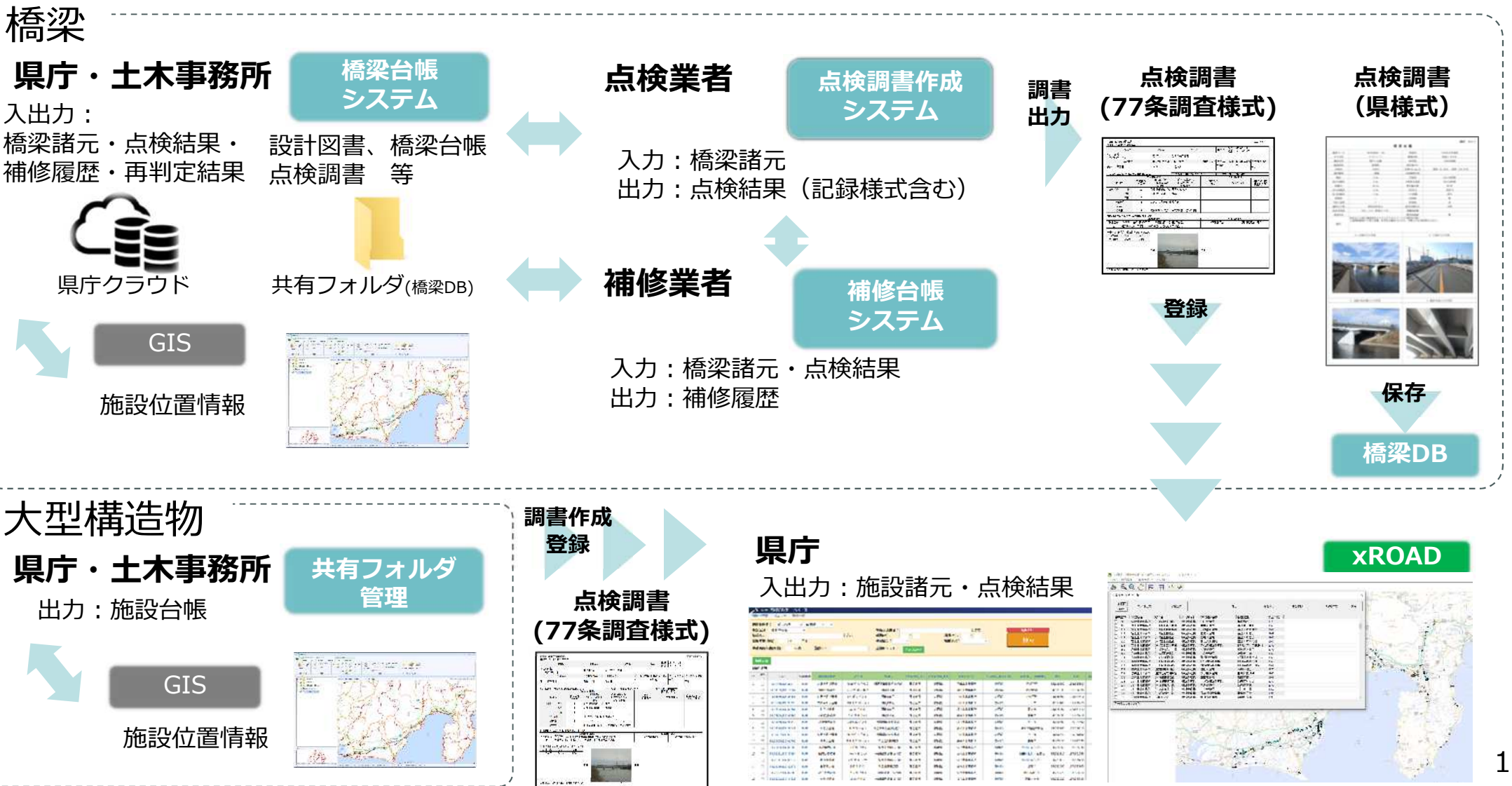
橋梁の計画値と実際



2.本県の維持管理の状況 – (3) 管理の状況

データ管理

- 橋梁は、独自に構築した「橋梁台帳システム」「点検調書作成システム」「補修台帳システム」と「xROAD（国の維持管理DB）」を利用し管理を行っている。
- 大型構造物は、「xROAD」を利用し管理を行っている。



データ管理に関する事後評価

- 現行計画で規定したデータ管理の運用における課題は以下の点が挙げられる。

課題1

データの格納

- ・ 業務完了後の情報更新が行われていない。
- ・ 登録用データに不備がある。また、その確認が出来ていない。

課題2

定期的なシステムの更新

- ・ 外的要因（国の要領改訂に伴う報告情報の変更、ソフトウェアのサポート期限の終了）により、その都度システムの改修作業が必要となる。

課題3

データの重複管理

- ・ 県と国とのシステムで共通情報を2重管理しており、変更時には両システムの更新が必要となる。